カーボンレポート

東京都低炭素ビル実績表示

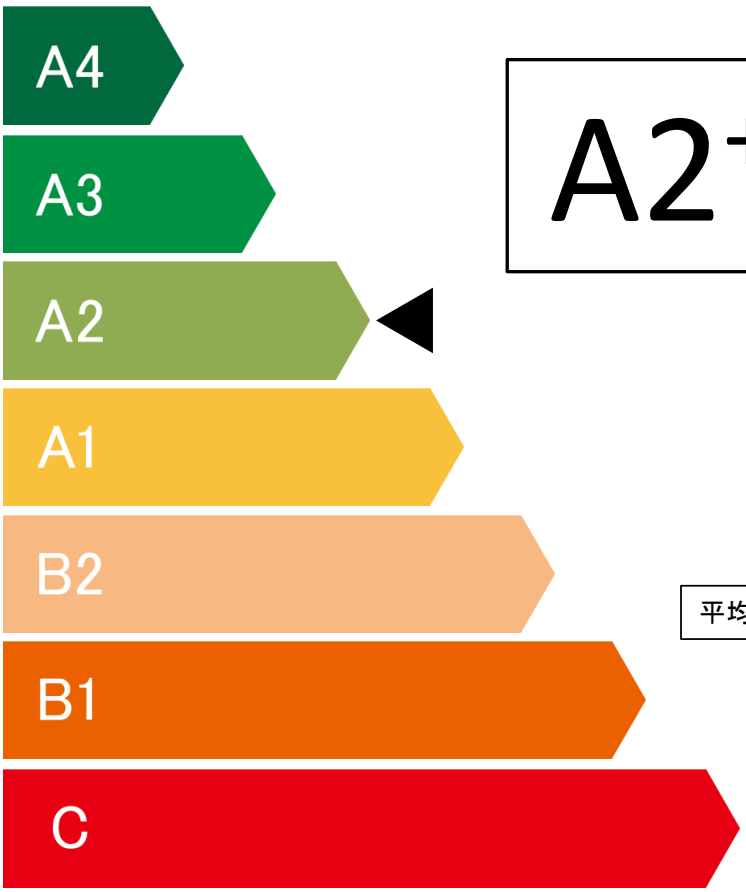
この書面は、都民の健康と安全を確保する環境に関する条例に基づく「地球温暖化対策報告書」（都内の中小規模事業所を対象）により東京都に報告したCO_2排出量の実績等を、地球温暖化対策指針に基づいて表示するものです。

No.A0861-0579

報告書提出事業者名	三菱UFJ信託銀行株式会社
事業所名	東池袋センタービル
住所	豊島区東池袋四丁目41番24号

実績年度	年間CO_2排出量	延床面積	CO_2排出原単位（延床面積当たりの年間CO_2排出量）	主たる用途
2016 年	307 t	5641.14 ㎡	54.0 kg-CO_2/㎡	事務所

ベンチマーク区分：テナントビル（オフィス系、中規模）



ベンチマークレンジ	CO_2排出原単位（kg-CO_2/㎡）の範囲		
A4		～	41.6
A3+	41.6	～	45.3
A3	45.3	～	49.1
A3−	49.1	～	52.9
A2+	52.9	～	56.7
A2	56.7	～	60.4
A2−	60.4	～	64.2
A1+	64.2	～	68.0
A1	68.0	～	71.8
A1−	71.8	～	75.5
B2+	75.5	～	79.3
B2	79.3	～	83.1
B2−	83.1	～	86.9
B1	86.9	～	113.3
C	113.3	～	

※ベンチマークは、都内の中小規模事業所のCO_2排出水準（CO_2排出原単位の水準）を15段階で示す指標です。（詳細は、『自己評価指標（ベンチマーク）解説書』（東京都環境局発行）を参照）
※CO_2排出水準は、ビル側の地球温暖化の対策の推進状況だけでなく、ビルの稼働状況や入居者の取組等の影響を含むものです。
※本書面の記載内容は、第三者の検証を受けたものとは限りません。また、報告書提出事業者の事業所範囲についての内容であるため、区分所有等の場合、基本的にビル全体の内容と一致しません。共有の場合は、持分割合に応じたものとなっています。

◆ 地球温暖化対策の実施状況

	重点対策	その他対策
	対策名	対策名
組織体制の整備	テナントにエネルギー使用量提供	
エネルギー等の使用状況の把握	自ら入手可能な情報に基づく把握	テナントへの温暖化対策の協力依頼
	エネルギー使用量の前年度比較	使用量に応じた料金体系等の採用
		設備ごとに詳細に把握
運用対策	空室・不在時等のこまめな消灯	
	空室・不在時等の空調停止	
	階段照明の管理手法の検討・実施	
	高効率パッケージの採用	
設備保守対策	空調フィルターの清掃・点検	換気フィルターの清掃・点検
		その他設備の定期的な保守・点検
設備導入対策	高効率照明ランプの採用（屋内）	BEMSの導入
		更新に合わせた高効率機器の採用

上記は、本事業所が実績年度に実施した対策です。

◆ 補足説明（自由記入）

[建物]：1991年（平成3年）竣工。2015年12月に、SIIからの補助金を使い、殆ど全部の照明器具のLED化と、空調機の高効率化を実施。また同時期に自動販売機の高効率化を実施。
[電気設備]：屋上にキュービクル受電設備設置。照明・エアコンの高効率化が実施
[空調設備]：空冷パッケージ空調機による個別空調方式。外気導入は全熱交換器付きの床置きファンコイルで行い、冷温水の熱源としては空冷ヒートポンプチラーが設置
[照明設備]：殆どの照明器具は直管形LED（LDL40×2灯）及びLEDダウンライトに更新

◆ 注記

ビルのCO_2排出原単位（延床面積当りの年間CO_2排出量）は、ビルの断熱性能、設備・機器のエネルギー効率及び運用・保守管理状況を、総合的に示すビルの省エネルギー指標です。東京都が提供するベンチマークは、中小ビルのCO_2排出原単位の平均値を用途別・規模別に示しており、その平均値から個々のビルのCO_2排出原単位がどの程度離れているかをみることで、当該ビルの低炭素レベル（省エネ性能）を評価することができます。

なお、ビルのCO_2排出原単位は、空室率、駐車場や電算室の有無、稼働時間、入居テナントの種類や入居テナントのエネルギーの使い方等によっても影響を受けます。ベンチマークは、こうした様々な要因も包含した平均値を示していますが、省エネの取組以外の要因が著しく大きい等の場合、評価者は、これらの要因がどの程度、CO_2排出原単位に影響を与えているかを考慮する必要があります。詳細は、『自己評価指標（ベンチマーク）解説書』（東京都環境局発行）をご参照ください。